

「日本経済の持続的発展と内航海運の高度化」

岡山大学創立 70 周年記念シンポジウム開催 10 月 7 日 岡山

岡山大学創立 70 周年を記念した SDGs (※1) シンポジウム「日本経済の持続的発展と内航輸送の高度化」が 10 月 7 日、岡山市内の同大学津島キャンパスで開催された。「内航海運



津守教授

事業者が国内全産業共通の課題である人口減少下で意識向上を図りながら、技術革新目覚ましいデジタルイノベーション (※2) に対してどう取り組み、持続的に発展して行けるか」をテーマにしたこのシンポジウムは、同大学社会文化研究科と経済学部、国土交通省、日本海事協会、日本内航海運組合総連合会、海洋共育センターが共催、日本船用工業会、日本中小型造船工業会が後援し、第 1 部・基調講演と第 2 部・パネルディスカッションで構成された。



富士原氏

大坪氏

中島氏

加藤氏

藏本氏

第 1 部では、①富士原康一日本海事協会会長が「デジタル時代に内航海運に求めるもの」②大坪新一郎国土交通省海事局長が「令和・新時代の内航海運政策～内航船員の働き方改革、事業のあり方、そして内航イノベーション」③加藤由起夫総連合会理事長が「内航海運の課題と展望」を講演。第 2 部では津守貴之同大学教授をコーディネーターに、3 講師と藏本由紀夫海洋共育センター理事長 (全国海運組合連合会会長)、中島基善ナカシマプロペラ社長が加わり、「デジタル化と内航輸送の未来」について論議を交わした。



シンポジウム閉幕後、岡山駅前のホテルに会場を移し藤原氏と渡田滋彦中国運輸局次長の挨拶、岡本信也中国地方海運組合連合会会長の乾杯でレセプションが開幕し、200 名を越す共催・後援の関係者と聴講者が和やかに懇談し、今後の内航海運のあるべき姿を話し合った。

※1) SDGs (Sustainable Development Goals) とは、国連サミットで採択された国連加盟 193 カ国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた持続可能な開発目標。具体的には、①貧困撲滅 ②飢餓撲滅 ③全ての人に健康と福祉 ④全ての人に質の高い教育 ⑤ジェンダー平等の実現 ⑥安全な蛟トイレを世界中に ⑦クリーンエネルギーの提供 ⑧働きがいの経済成長 ⑨産業と技術革新真基盤作り ⑩人や国の不平等撲滅 ⑪住み続けられるまち造り ⑫作る責任と使う責任 気候変動の具体的対策 ⑬海の豊かさを守る ⑭陸の豊かさを守る ⑮平和と公正を全ての人に ⑯パートナーシップで目標達成、を掲げている。
※2) デジタルイノベーション (Digitalization) とは、モノのインターネットである IoT (Internet of Things) の進化によって、生活の中ではあらゆるモノやコト、ビジネス面では商品やサービス、それらを企画・開発・製造する工程や販売、流通やマーケティング、さらには消費者の体験、これらのバリューチェーン (Value Chain / 価値連鎖) の隅々にまでデジタルを適用することをいう。2020 年までに 500 億以上のデバイス (Device / 電位部品や周辺機器) がインターネット上でつながり、それらからの膨大なデータの高速解析により今までにない新たなアウトプットや価値を生み出す昨今の IoT の流れは、今までで一番大きなデジタルイノベーションの波だと言われている。